

受講生の所属と学年からの一考察

技術教育・森慎之助

1. 授業の概観

本授業は，技術教育の免許を取得するために必要な必修教科である。1 回生後学期に開講している。ここでは，金属を加工するための種々の方法，代表的な切削材料の特徴の教授を主体とし，その中に実習を含めて講義を行う内容である。教科書を片手に，できる限り実際の工具，材料，機械を前にして触れさせる体験を積極的に取り入れた授業を行っている。

2. 授業評価法

評価はアンケート形式で行った。評価のための項目は授業法，教育媒体，難易度，達成度，満足度，科目独自などからなる 8 項目で構成し，5 段階評価で行った。表 1 にアンケート質問内容を示す。受講生の内訳は技術専修 6 名，情報教育コース，国際理解教育コース各 2 名（3 回生）の計 10 名である。

表 1 アンケート質問項目

設問番号	設問内容
(1)	教官の話し方や説明により，授業内容（概念，理論など）が，わかりやすく講義された。
(2)	授業の内容・レベルはあなたにとって適切だった。
(3)	授業を受講した目的が達成できた。
(4)	本授業により新しい知識，概念，技能を身につけることができた。
(5)	金属に対して面白さを感じてきた。
(6)	自分の生活周りに使用されている材料に対して見方が変わってきた。
(7)	ものづくりに対して興味がわいてきた。
(8)	実際に金属加工してみたいと思う。

3. 授業評価結果

回答結果を図 1 に示す。グラフ内の数値は人数を示す。設問(2)の授業レベルは「適切」から「やや難しい」の回答を得ており，学習内容的には教員の狙うレベルであった。設問(4)と(5)の回答から，金属材料と加工に関して興味・関心は高まるようである。しかし，試験の結果から理解の度合いはかなり低い。

評価内容として，秀：1 名，優：3 名，良：3 名，可：2 名，不可：1 名であった。今回，単位を付与した者のうち，新課程の 3 名の平均点は技術専修の 6 名より高いものであった。秀の評価をしたのは国際理解教育コースの学



図 1 回答結果

生である。この要因として，木材加工法の授業評価で述べたが，1 回生は興味・関心の高さと知識・理解の低さのずれが生じている。3 回生は，多数の授業の受講経験から自分の勉強法を身につけている者が多いと思われる。また，情報教育コースの 1 名は 4 回生で教育実習が予定されており，そのことも受講に対する心構えに影響があったと考える。

毎年，この講義のまとめとして重要とする項目をプリントにして配布している。試験問題もその項目から選択するので，自分の文章スタイルで，ノートにまとめておくようにと指示をしている。1 回生は学習の方法になれていないものと思われる。

自由記述により身についた知識・技術について回答させたところ，ほとんどが「金属の種類，性質等」であった。

4. まとめ

1 回生は教科専門の授業を対し，興味・関心までは高まっているので，それを知識・理解への向上へ結びつくよう授業改善を行い，授業指導を行わねばならないことを認識した。